

0225

GHF

親

局長

課長

局員

四一七

受信

一一五〇〇

譯了

一三〇〇

六三七二

作・航本

● 第四南遣艦隊口・二十三航戦

● 大海參一部

● 聯合艦隊口・中部太平洋方面艦隊口・二十六根  
● 第一航空艦隊口・第一機動艦隊口・二十三根メナド派遣隊  
● 第十八機動隊口・第二方面軍一輝部隊司令官  
● 南方軍總司令官一第十通信隊氣付

機密第一七〇七五〇番電

G K 機密第一五一二四五番電中第四航ノ次ニ「空軍」ヲ下ノ次「ヒ

ア夕島」ヲニモシ第一ノ次「E O G」ヲ夫々挿入サレ度。

一〇六一六

昌二日

一九五五〇〇〇廿一簿

軍

104/144

0226

150 GKF

親至

局長 課長 局員



● 軍令部長長・海軍次官 ●  
● 南西方面艦隊各戸 ●

四 一七 受信一三四四 轉丁一六〇〇  
轉始一五二五

〇〇八四六〇  
〇〇八四五九  
作 艦政

機務第一七一三番艦

二分ノ一、二

發 南西方面艦隊司令長官

被害防止上船團ノ夜間航行ハ極力制限シツツアルモ船團選力ノ低小ナルト適當ナル中間避泊地ヲ得ルコト容易ナラザル爲巨ム得ズ危險海面ノ夜航ヲ敢行シツツアリ特ニ華北海面ハ晝間ハ敵機ノ空襲下ニアル爲殆ト夜航ノミニ依ラザルベカラザル狀況ニ在リ然ルニ敵潜水艦ハ其ノ電探ヲ利用シテ恰モ目明方商人ヲ狙フガ如ク夜間容易ニ我方船團ヲ捕獲シ攻撃シツツアリ爲ニ我艦隊出動近ミシタオオ島南

一〇六六〇 一〇六四六 島四〇(一九五五〇)二十一 海

軍

方ニ於テペンガム<sup>ペンガム</sup>丸新京丸ガヒラム近海ニ於テ第一日ノ丸水仁丸  
 ガ一暴ニ墜沈セラレタル如キ切實<sup>切實</sup>判續發見處ニ接ヘザルモノアリ  
 右ノ如ク被害ヲ防止スル爲ニハ電探探知機ヲ以テ敵ノ電探電波ヲ探  
 知シ速ニ敵潛ヨリ離脱ヲ圖ルヲ第一トシ之ガ效果ハ既ニ若干ノ裝備  
 艦ノ實驗ニ依リ明カナリ依リテ此ノ際速急ニ全機雷艇ニ右兵艦ヲ  
 裝備サレ度。

第十課

海軍

GF

至急

親展

四 一八

受領

了始

三三  
〇五  
〇〇九

(〇八八七八) 作 區

● 中東太平洋方面艦隊

● 大本營陸軍部・三〇部

機密第一八一一〇一香電

發 聯合艦隊參謀

送 三一軍海軍

聯合艦隊司令作第 四四八號 訂正了り度

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

第 十 五 號

TYF

朝至急



一八

受給二八四五〇

了二三二五

〇〇九九〇〇八八七

作

● 家 類・五 巻

● 一〇 巻・類 巻

書第一八一一一四番

二分ノ六二

第三十種郵便部令官

第三十種郵便部令官

郵便部令官。一五〇〇番。大塚。一五七。郵便局長

郵便部令官。一五〇〇番。大塚。一五七。郵便局長

一 郵便部令官

出願月十七日ハ才徳有ニテ職二職分一三式簿簿具使用

(四) 四月十八日同シタハ才徳内ニテ職一職分一(四)

一一四五三・一一四七二

長二四一五七一〇四(海)

海

第十編

第十信線

(四) 陸分ニ自備ヲ得二十一日中ニ至キ水運發着開港了テ且船トシテ全  
力ヲ盡シテ發着進行中

三 總務處分ニ關シ即急務發着環

(四) 海軍艦ニ特種ノ海軍ノ船艇ト被置處分トニヨリ三式掃海具ノ出航  
大ニ今日迄ニ三基機給アリタルノミナリニ依リ急務掃海具方取計  
ハレ候

(四) 掃海機第三一〇八二〇番機一三月ノニテ要緊掃海具掃海具二

〇機ノ急務

(四) 一〇〇一號機掃海具ニ付テ掃海具未出航

第一五五号ヨリノ三式掃海具八基未出航

(四) 二式掃海具掃海具機機ノ掃海具二機以上ノ急務掃海具一機發着機

第一〇〇一九三二號機ニテ急務ノ機

海 電

IAF

親王  
展急

四

一九八

譯譯受

了始信

〇〇二

一一三

三〇二

〇〇四

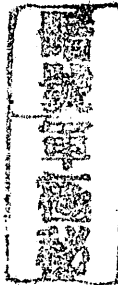
(〇九一六九)

一人

合事

人 事 局

● 大海參一部・二六一空・二六三空



機密第一八一九一〇番電

發 一 A F 參謀長

屢次ノ戦闘ニ依リ二六一航空隊ハ岡佐古(五三二四)鮎川(五四四六)  
 澁谷(三四五四)ノ七〇一ノ戦死 東山(ホ一四九九)木村(ホ七八一)  
 ○(戦傷 二六三空ハ武藤(四八六五)吉川(五三六五)輪島(ホ一五  
 ○一)島田(三四五四)ノ六五四)菊地(ホ一六一六六)長瀬(三〇三  
 一)戦死ノ情况ハ既報ノ通指揮官拂底戦力發揮ニ極メテ困難ヲ感ジタル實情ナレバ速ニ補充

方御取計ヲ得度。

一一六六〇

呂一B)

(五通

海

軍

電  
十  
號

人事

電信部  
第十課

四

一九

受信一三五七

譯丁一五三〇

一〇九四四二

一令・航本

譯始一四三〇

人事

親至

● 春島航空基地

● 五七航空基地

● 東京通信隊・五通信隊

機密第一九一一三〇番電

發 第一航空艦隊參謀長

宛 第二十二航空戰隊司令官

通報 〇〇〇參謀長 第四艦隊參謀長 大本營海軍參謀部第一部長

メレヨン基地強化並ニ確保ニ對シ夜間戰闘機一六機程度常駐ノ要アル

トコロ當隊屢次ノ戰闘ニ依リ准士官以上ニ於テ二六一空ハ隊長分隊長

未ダ指揮官タラシメ得ザル少尉一名二六三空隊長ノミトナリ區隊長又

一一九六八

呂二B(一六七五五)五通

海

軍(一)

0232



若年ニシテ戦闘有驗者ナク分派指揮ヲ缺クニ至レル故ニ差當リ飛行機  
ハ六一航空戦隊ヨリ人員ハ貴部下ヨリ派出スルコトニ故摩<sup>所</sup>意承知致  
度。

第十條

海軍

GF

人事

局長

課長

司員

第七十課

四一九

受了始價

三三〇  
三一〇  
一四一  
〇〇二

〇〇〇  
九九九  
五五五  
八八七  
一〇九

作

聯合艦隊各戸  
大 隊 參 一 部

機密第一九一七三三番電

三分ノ六三三

聯合艦隊參謀長

通報 威參謀長

カロリン

十八日・十九日PR南方海面ニ於ケル敵航空母艦隊ノ行動

十九日午前「〇〇」ニ對スル敵艦上機ノ來襲並ニ最近ノ通信

機報ヲ綜合セル書面ノ敵情判斷左ノ通り

一、敵ハ太平洋方面ヲ主攻印度洋方面ヲ助攻トスル大規模同時作戰ヲ發

動セリ

一三二五三・一三一八三・一三二八五

四四四(一八九八四四)附一函

東

海軍部 電報 第十課

電報 第十課

三 太平洋方面ニ於ケル敵ノ作戦企圖ニ對スル判斷ハ聯合艦隊司令作第  
 四六號ニ依ルニ一作戰情況判斷ニ同ジ  
 三「P E」南方海面行動中ノ敵空母群ニ關シテハ其性格未ダ明瞭ナラ  
 ザルモ四月十一日同方面ニ出現セル空母群ト同様特空母程度ノモノ  
 トスレバ敵ノ有力機動艦隊ノ消息依然不明ト言フベク其ノ出現ハ前  
 項敵ノ主攻作戦ニ直接關聯スベキ算ナリ  
 四 印度洋方面ハ敵ノ助攻作戦ナレドモ「P E」<sup>ペンタゴン</sup>「R Y」<sup>ニコハル</sup>「A」北部「B」<sup>スマトラ</sup>  
 方面ノ上陸ニ對シ警戒ノ要アリ。

海

軍

0236

156 NTF

人

急

四一九

二〇 受了 始信

〇二二  
〇一〇  
四三四  
五五二

(〇九五九一)

作

第十課



● 第三空襲部隊 △  
● 大津参一部



機密第一九一九五三番電

B B 電令作第三一七號  
第三空襲部隊指揮官ハ B B 電令作第三一三號ニ依ル G A 哨區哨戒ヲ  
速ニ實施スベシ。

一三一九六

呂二日(五九〇五四)廿一 連 軍

4820

GKF

人

作

陸軍大臣 陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部)

機 密

陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部)

陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部)

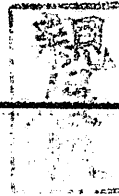
陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部)

陸軍省 (陸軍部) 陸軍省 (陸軍部)

海軍

第十信

AF



人事

四二〇

文信〇〇三四七

丁〇五三五

（〇九六八二）

作

三陸海軍部

大連第一師 七三二型・三八一空・聯合艦隊口  
中部太平洋方面艦隊口・高西方艦隊口

機密第一九二二三二五番電

第一航空艦隊司令部 第三〇〇〇番電

「第一作戦用意」アリタル場合ハ艦下艦上攻撃機並ニ戦闘機主力ヲ  
北越直ノ基地（指揮官所定）ニ進出セシメラルル機定ニ付準備セシメ  
ラレ度進出基地ヲ機定シ報告サレ度。

一三三七一

海軍

海軍

第電  
十信  
課

手  
事

四二〇

受領一七三四五

一八二〇

一〇二一〇

軍務・人事

電信者 共

符

電信者 千島方面防備部隊

受領者 兵人 備 局 北東方面監護隊

機密第二〇一一三三番電

發 第五艦隊參謀

快風丸ハ相次々高等船員ノ缺員ノ爲現狀ヲ以テシテハ任務遂行ニ支障  
アリト認メラル 之ガ根本的對策トシテ同船ヲ特設艦船トシ全部軍人  
ヲ以テ充員スル中央ヲ新舊中ヲ以テ差違ヲ實際司令部附屬各ノ目  
七九六五ノヲ一時同船ニ乗組指定方取計ハレ候。

一三六〇〇

八月二日(二〇四)大發通

海軍

電信課



二〇  
 丁始簡  
 〇〇〇  
 (一〇一四三) 作保

● 海上運衛總司令部・第一海上運衛隊

大船第一隊・南面方面運衛隊・三浦運衛隊・四浦上運衛隊  
 十八號隊・支那方面運衛隊・佐領・上海親衛隊・海防隊

總務課 二〇一八四五番電

陸 第六運衛總司令部

六運衛總司令部 一五三五番電  
 一五三五番電  
 一七分 二十三日本線二四度三六分東經一三〇度四二分 二十四日北  
 緯二一度五八分東經一二〇度三九分以下同電通。

一三八八七 呂一〇(一四九五五)上陸

海軍

第十信課





人事

第電  
十五  
課

作

四三  
● 聯合空襲隊、六空襲隊  
● ハリリユール航空隊  
● 中東太平洋方面艦隊、第三艦隊、第二艦隊、第十一艦隊、第十二艦隊、第十三艦隊、第十四艦隊、第十五艦隊、第十六艦隊、第十七艦隊、第十八艦隊、第十九艦隊、第二十艦隊、第二十一艦隊、第二十二艦隊、第二十三艦隊、第二十四艦隊、第二十五艦隊、第二十六艦隊、第二十七艦隊、第二十八艦隊、第二十九艦隊、第三十艦隊、第三十一艦隊、第三十二艦隊、第三十三艦隊、第三十四艦隊、第三十五艦隊、第三十六艦隊、第三十七艦隊、第三十八艦隊、第三十九艦隊、第四十艦隊、第四十一艦隊、第四十二艦隊、第四十三艦隊、第四十四艦隊、第四十五艦隊、第四十六艦隊、第四十七艦隊、第四十八艦隊、第四十九艦隊、第五十艦隊、第五十一艦隊、第五十二艦隊、第五十三艦隊、第五十四艦隊、第五十五艦隊、第五十六艦隊、第五十七艦隊、第五十八艦隊、第五十九艦隊、第六十艦隊、第六十一艦隊、第六十二艦隊、第六十三艦隊、第六十四艦隊、第六十五艦隊、第六十六艦隊、第六十七艦隊、第六十八艦隊、第六十九艦隊、第七十艦隊、第七十一艦隊、第七十二艦隊、第七十三艦隊、第七十四艦隊、第七十五艦隊、第七十六艦隊、第七十七艦隊、第七十八艦隊、第七十九艦隊、第八十艦隊、第八十一艦隊、第八十二艦隊、第八十三艦隊、第八十四艦隊、第八十五艦隊、第八十六艦隊、第八十七艦隊、第八十八艦隊、第八十九艦隊、第九十艦隊、第九十一艦隊、第九十二艦隊、第九十三艦隊、第九十四艦隊、第九十五艦隊、第九十六艦隊、第九十七艦隊、第九十八艦隊、第九十九艦隊、第一百艦隊

● 聯合空襲隊、六空襲隊  
● ハリリユール航空隊  
● 中東太平洋方面艦隊、第三艦隊、第二艦隊、第十一艦隊、第十二艦隊、第十三艦隊、第十四艦隊、第十五艦隊、第十六艦隊、第十七艦隊、第十八艦隊、第十九艦隊、第二十艦隊、第二十一艦隊、第二十二艦隊、第二十三艦隊、第二十四艦隊、第二十五艦隊、第二十六艦隊、第二十七艦隊、第二十八艦隊、第二十九艦隊、第三十艦隊、第三十一艦隊、第三十二艦隊、第三十三艦隊、第三十四艦隊、第三十五艦隊、第三十六艦隊、第三十七艦隊、第三十八艦隊、第三十九艦隊、第四十艦隊、第四十一艦隊、第四十二艦隊、第四十三艦隊、第四十四艦隊、第四十五艦隊、第四十六艦隊、第四十七艦隊、第四十八艦隊、第四十九艦隊、第五十艦隊、第五十一艦隊、第五十二艦隊、第五十三艦隊、第五十四艦隊、第五十五艦隊、第五十六艦隊、第五十七艦隊、第五十八艦隊、第五十九艦隊、第六十艦隊、第六十一艦隊、第六十二艦隊、第六十三艦隊、第六十四艦隊、第六十五艦隊、第六十六艦隊、第六十七艦隊、第六十八艦隊、第六十九艦隊、第七十艦隊、第七十一艦隊、第七十二艦隊、第七十三艦隊、第七十四艦隊、第七十五艦隊、第七十六艦隊、第七十七艦隊、第七十八艦隊、第七十九艦隊、第八十艦隊、第八十一艦隊、第八十二艦隊、第八十三艦隊、第八十四艦隊、第八十五艦隊、第八十六艦隊、第八十七艦隊、第八十八艦隊、第八十九艦隊、第九十艦隊、第九十一艦隊、第九十二艦隊、第九十三艦隊、第九十四艦隊、第九十五艦隊、第九十六艦隊、第九十七艦隊、第九十八艦隊、第九十九艦隊、第一百艦隊

海防第二一〇四一〇番

第六空襲隊偵察合作第六一〇番

二十一日黎明夜襲ヲ取止メ左ノ空襲ヲ實施ス當隊ハ所屬基地ニ歸投

セシム

第一次空襲

一 敵機二機 敵機七機 P二〇乃部P三六 九機

二 進出距離四〇〇海陸各所無基地ニ歸投

0242

一三一五三 四二日 一 五放 海 軍

第二卷

一、陸攻五機 二、一乃至 三、九機

二、陸出軍機五〇〇 三、測程右五〇機

四、一〇〇機反撃シタル後現國艦隊ニ陸攻。

第十卷

海

軍 2

札

人

四  
三三  
三二  
開始〇四一〇八

解了〇五五五

一〇〇七五六四

一〇〇七五六四  
事務令

- 東京通信隊
- 聯合艦隊口・中部太平洋方面艦隊口

機密第二一一二〇九番電

二分ノ三

發 南東方面艦隊參謀長  
宛 人海局長

通報 大海參一部長軍務局長 聯合艦隊參謀長  
當方面輸送關係停頓シアリシ爲内地方面要路運者ニシテ目下且ニ滯留中ノモノ左ノ通多數ニ達シアリ新ニ異動ヲ發令或ハ内地運送ヲ要求セラルルモ輸送機材水陸便ヲ著増セラレザル限り當分運送ノ見込無キ

一三四八九、一三四七九

呂一〇一（四九四五〇）八通放

(4)

ノミナラズ 隨選者多數ヲ種スルニトハ決戰態勢裡ニアリテ全般ノ統帥上好マシカラズ 影響アルヲ以テ時ニ聚要已ムヲ得ザルモノノ外當分ノ間與動發令或ハ運送要求等ハ差控ラレ度

内地方面要選送者員數

一 一般關係者 准士官以上 〇一 下士官兵五八四 列任以上軍屬船員九

六 民政部民面關係八五 工員船員等一二九五 合計二〇六〇

二 航空隊關係 准士官以上六六 下士官兵一九〇三名 合計一九六九

三 總計四〇二九

海軍

GKF

東

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文

第十信課

● 第一海軍大臣 三浦 廣文 ● 第二海軍大臣 三浦 廣文 ● 第三海軍大臣 三浦 廣文

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文 三浦 廣文

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文 海軍省 海軍大臣 三浦 廣文 海軍省 海軍大臣 三浦 廣文

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文 海軍省 海軍大臣 三浦 廣文 海軍省 海軍大臣 三浦 廣文

海軍省 海軍大臣 三浦 廣文 海軍省 海軍大臣 三浦 廣文

海軍

領隊員借費數二一編ノ二六編ハ他より陸軍中ノ六編ヲ含ム一ニ本據シ  
 三一編ノ一三編ニシテ其ノ餘力ニ次第アリ南西方面艦隊司令長官所  
 在艦隊トシテ致少編隊ノ編制トスルモ三一編借費ニハ領隊員等ノ不  
 足ヲ補フ各編隊員ニ據ルハ編ニハ編ニ據テ五編中該二編ヲ與ス一  
 口口ニ一編ヲ増徴ハ該隊ノ借費上五月上旬ト確定サレアリ電報機ノ  
 運轉ハ該隊ヲ與ス正式手續ノ餘額ヲカリシ爲メトテ得ズ後南ノ兵機  
 轉用ヲ計畫費取ニ據セシ際ハ主務機關ヲ該隊ニ該隊手續中ナリシモ  
 ノナリ右ノ事情ニ付三一編ニ與シ使ノテ編二編・二編編三編・四編  
 編四編・五編中該隊借費二編借費二五編ノ増強司令方東射相成度  
 當方トシテハ南西方面艦隊司令第一〇三〇三一番電ニ依リ陸軍軍  
 費五組ノ外ニ應金用トシテ該隊自備車一式ハ第一編連隊隊司令部用  
 一編五編二編及特受三編一〇二軍部部員者一ヲ陸軍備中  
 費第三十一編借費兵機轉用正式命令ナレタニ適合ハ新ニ内地ヨリ海  
 軍大佐ノ名義ヲ以テ該隊借費額ノ三分ノ一額計額決定セ。

第百一號

海軍

人事

三三 受領一五五〇

丁一六〇五 (一三〇三五) 保

受領者、

着信書、運 輸 本 部

受領者、

機密第四〇二番電

發 マンジュ丸船長

機密故障ノ爲二十三日一六〇〇奉本ニ復函一七〇〇機密遂成出港  
支ナキモ航空隊護衛ノ關係上二十三日〇七〇〇出港  
關係各部ニ然ルベク。

一四六六八

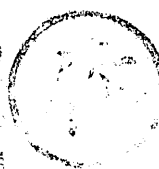
天

海 軍



GF

陸軍



四二三 陸軍 一五三〇八 丁 一五五〇 (一) 二四九三 (二) 傳

● 聯合艦隊司令部  
● 大本營 第一軍

陸軍極秘

陸軍部二三〇八〇一番號 二分ノ二

聯合艦隊司令部

太平洋正面聯合敵情(四月二十一日二十二日)

四月二十一日

(4) ワタデ 敵艦基地早朝ヨリ夕刻迄艦上機延一〇〇機 夜襲飛行機使用不能

回ホーランドイマ一日中海上機約一〇〇機外ニ艦上機多數回航的來

一四六二〇・一四六四二 四二B 一一九五五〇(海) 廿一 海軍 軍1

守定 十信 課

六二七〇〇戦艦二 航空母艦四 巡洋艦一 駆逐艦ホーランドイア沖

遊弋中

三月二十二日

四〇五〇〇「フンボルト」機一ホーランドイアへ航空母艦巡洋艦駆逐艦計二〇隻西岸へ「ハマデー」二上陸開始夕刻ホーランドイア地区ニ迫ル

(四)〇五〇〇「アイタバ」上陸開始巡洋艦二 駆逐艦一〇 輸送艦多数

(六)一一八「ホランデヤ」五〇度一一〇度洋艦三隻 駆逐艦二一隻

大型輸送艦四 針路二一〇乃至二三〇度 速力一〇節

(三)一六〇〇「メシユロ」飛行偵察一伊號隊三十六潜水艦一空母一 駆

艦三 輸送艦三 其ノ他西在泊

三ニエーギネア北方海域航行中ノ空母ハ四乃至六隻「メシユロ」ニテ

発見セル艦隊ハ敵機動部隊ノ主力ナリト判断シアリ

海 軍 2

第十卷



局長 局長 局長

四 二三

受領一七二三  
開始一九四〇

丁二〇二五

一三五六六

人事

人事

● 東通氣付・三一通氣付

● 五通氣付・九通氣付

● 共

特

後密第三三一六〇五番電

送

三〇B G

宛

G R F 局長

通報

G Y F 局長

九〇局長

第二七時根附軍中尉松島文彦(夕二二〇〇)九〇警附少尉(豫備士官)金海濱津當地滞在の中ノ處現下ノ戰況ニ鑑ミ赴任先知ラサレ度尙滞在長期ニ亘ル場合ハ一時當司令部承命服務方指示相成度。

一四七五八

呂二D(一五七一〇K)三編

海軍

人事



三

東京府立第一中学校 (TOKYO DAICHO)

校長 佐藤 謙三

主任 佐藤 謙三

東京府立第一中学校 (TOKYO DAICHO) 校長 佐藤 謙三

東京府立第一中学校 (TOKYO DAICHO)

三三三三三

東京府立第一中学校 (TOKYO DAICHO) 校長 佐藤 謙三

東京府立第一中学校 (TOKYO DAICHO)

東京府立第一中学校 (TOKYO DAICHO)

海

0253

一、海軍省  
 二、海軍省  
 三、海軍省  
 四、海軍省  
 五、海軍省  
 六、海軍省  
 七、海軍省  
 八、海軍省  
 九、海軍省  
 十、海軍省  
 十一、海軍省  
 十二、海軍省  
 十三、海軍省  
 十四、海軍省  
 十五、海軍省  
 十六、海軍省  
 十七、海軍省  
 十八、海軍省  
 十九、海軍省  
 二十、海軍省  
 二十一、海軍省  
 二十二、海軍省  
 二十三、海軍省  
 二十四、海軍省  
 二十五、海軍省  
 二十六、海軍省  
 二十七、海軍省  
 二十八、海軍省  
 二十九、海軍省  
 三十、海軍省  
 三十一、海軍省  
 三十二、海軍省  
 三十三、海軍省  
 三十四、海軍省  
 三十五、海軍省  
 三十六、海軍省  
 三十七、海軍省  
 三十八、海軍省  
 三十九、海軍省  
 四十、海軍省  
 四十一、海軍省  
 四十二、海軍省  
 四十三、海軍省  
 四十四、海軍省  
 四十五、海軍省  
 四十六、海軍省  
 四十七、海軍省  
 四十八、海軍省  
 四十九、海軍省  
 五十、海軍省  
 五十一、海軍省  
 五十二、海軍省  
 五十三、海軍省  
 五十四、海軍省  
 五十五、海軍省  
 五十六、海軍省  
 五十七、海軍省  
 五十八、海軍省  
 五十九、海軍省  
 六十、海軍省  
 六十一、海軍省  
 六十二、海軍省  
 六十三、海軍省  
 六十四、海軍省  
 六十五、海軍省  
 六十六、海軍省  
 六十七、海軍省  
 六十八、海軍省  
 六十九、海軍省  
 七十、海軍省  
 七十一、海軍省  
 七十二、海軍省  
 七十三、海軍省  
 七十四、海軍省  
 七十五、海軍省  
 七十六、海軍省  
 七十七、海軍省  
 七十八、海軍省  
 七十九、海軍省  
 八十、海軍省  
 八十一、海軍省  
 八十二、海軍省  
 八十三、海軍省  
 八十四、海軍省  
 八十五、海軍省  
 八十六、海軍省  
 八十七、海軍省  
 八十八、海軍省  
 八十九、海軍省  
 九十、海軍省  
 九十一、海軍省  
 九十二、海軍省  
 九十三、海軍省  
 九十四、海軍省  
 九十五、海軍省  
 九十六、海軍省  
 九十七、海軍省  
 九十八、海軍省  
 九十九、海軍省  
 一百、海軍省

海

軍

海軍省

人事

四二四 受給一五〇五 (一二〇三六) 作

親展

南國方面、第三海軍各艦隊

受給者、友軍第一隊、聯合艦隊中、中隊太平洋方面、第三海軍各艦隊

後附第二三三〇〇〇番

第一海軍艦隊各艦

當設海軍中將部連出申初期ノ特選泊港ヲ「M」ニナシ、艦隊後部  
情ニ依リテハ警戒ヲ嚴ニシツツ外港ニ於テ訓練航行ノ指定ナルトモ  
右ニ照シ、兵力方配慮ヲ成度

一、特設艦隊艇又ハ特設掃海艇ノ派遣

二、敵ノ襲撃作戦ニ對シ「M」及「B」等ヲ避テ、本領ノ素敵

一三一八九

長岡A(一七五九〇〇)一〇番

海軍





0257

局長

第一課長

局長

第...  
十...  
...

四  
二四  
受信者  
開始〇〇五〇五  
譯了〇一〇〇〇一六三三



着信者・東 通

受信者・五 通

機密軍機

機密第二三二〇〇九番電

發 大本營海軍參謀長

宛 大本營海軍參謀部第一部長

松田少將二十四日〇五〇〇發大艇便ニテ歸還ノ豫定。

一四八七九 呂二五五八五五通

海軍

4/29-38

172

人事

局長 四二四

● 聯合艦隊司令部  
● 大南海一部・中部太平洋方面部隊司令部

機密第二四〇五〇〇番電

二分ノ二

第六艦隊參謀長

聯合艦隊機密第二三一三三二番電ニ關シ

一、本隊作戰ニ關シテハ聯合艦隊機密第〇五一三一五番電（三月）第五

項、三月中旬聯合艦隊參謀長Pに出張連絡、三月二十六日PPニ於テ

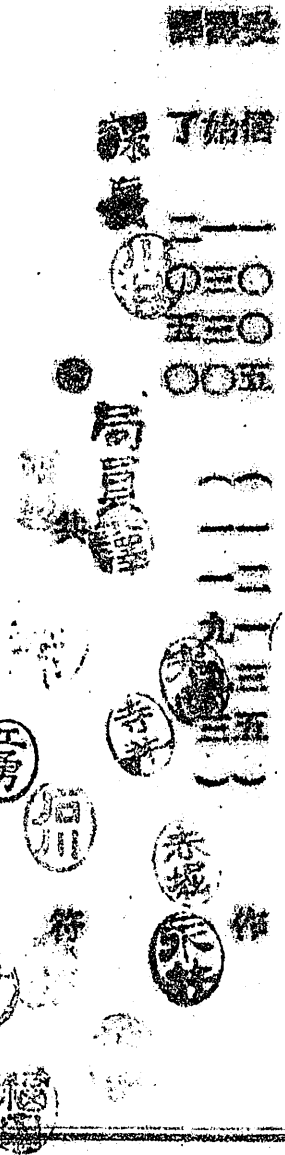
ル聯合艦隊司令部大南海一部及第六艦隊各主務參謀ノ打合せニ四月

一五二五一・一五三三三

四二四（八九九五）四通放

海

軍（一）



第...線

十六日大海一部主務參謀ノP.E.出張連絡等ニ依リ先遣部隊司令部ト  
 シテハ之方作戦ハ聯合艦隊司令部ニテ豫意セラレ聯合艦隊司令部ト  
 大海一部部下ハ委細連絡ノ上現情勢下ニ於テモ尙之ヲ實施セラレ不  
 日之ニ關シ然ル可ク發令アルモトシ研究準備ヲ進メアリ  
 三今迄ノ總實情ニ鑑ミ準備ノ爲現ニ實施シアル作戦ニ實質的影響アル  
 ハ伊三十八潛ノ奏回航ノミナリ。

第十信

海軍

193

人事

四二四 受領一三五〇 轉下二三三〇 (JINCHO)

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

赤城

第百一十號



一五三一七

陸三A(1000九五陸)四

海

軍

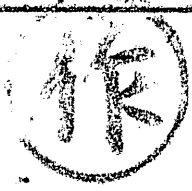
人事

第三期

受領一六三〇〇

丁一八〇〇 (一三三〇三)

作



受領書、先達部隊各員

受領書、大森 第一 部・聯合隊隊員・第三〇期

受領書 第二四一三三〇 巻

受領書 第一 部 聯合隊隊員

第三〇期 受領書 第三三〇九一〇 巻

「ケル」の受領書 補給隊員トシテ 受領ノ 聯合隊員ニ付「ケル」

水運無礙本道及北方各地ハ 開通セザルニト 二取計ハレ 慶。

1920

一五三五六

受領書 (一七五九〇) 一〇 巻

軍

第 一 部

115

人事

四 二四 受領一九三〇 譯了二〇一〇 (一二二一二五) 作



昭南在勅武官。一南遠艦隊  
大海軍一部。中部太平洋方面艦隊。二〇一軍需部

機密第二四一三五〇香電

發 第一機動艦隊參謀長

左ノ件至急知ラサレ度

一 五月四日頃昭南發ノ油槽船團 (日邦丸二洋丸興川丸萬榮丸榮實丸

ノヲ急遽日ヨリ回航セシノ燃料搭載日ヨリ出港スルモノトシテ其

ノ豫想期日

二 右各油槽船ノ燃料搭載量補給能力及電統補給裝置ノ有無。

一五四九〇 長二日 (一七五九〇) 十通 海軍

196

人  
3

四二二  
二六五 受  
始價 〇〇二五  
八五五 四 了 一 二 〇 〇 ( 一 三 六 七 〇 ) 時 時

聯合艦隊司令部 中部太平洋方面艦隊司令部・南西方面艦隊司令部・西南方面艦隊司令部

機密第二五一八三一番電 二分ノ一

艦隊第一電第一四八號

現下ノ情勢ニ於ケル第二方面軍ノ情況判斷

與決帝國陸海軍ハ全努力ヲ傾注シテ先ヅ中部「ニューギニア」地區ニ於ケル敵ノ基地占據ノ企圖ヲ破砕スルヲ要ス

「アホーランドイア」「アイタペ」附近ハ現下ノ敵情況ニ於テ敵ヲシテ

西部「カロリン諸島」比島等各方面ニ對シ敵ノ機動ヲ察知可能ニシテ地トシテ大ナル價値ヲ有スルハ宛當ヲ要セザル所ナリ而シテ現下海軍

一六三八五 呂二日 (一九五五〇) 廿一 海軍

第... 部

面及同方面戰備ノ情況ニ鑑ミ「ホーランドイアル」附近ヲ基地トシテ  
 敵時ニ其ノ航空機ノ行動ヲ恣ニヒシムルハ到底帝國軍作戰準備ノ強  
 化ヲ策ス所以ニ非ザルノミナラス今ニシテ此ノ敵ノ騎機ヲ行動ヲ  
 打撃對殺シ政戰兩略上今後ノ戰勢ヲ左右スベキ一轉機ヲ造成スルニ  
 アラザレバ今後帝國軍ノ作戰ハ益困難ニ陥入ルベキコト明カナリ。

一電信課註 二分ノ二既配布一

第十信課

海

軍 2



197

人  
局長

線長

局長

第十信  
線

四  
二六五  
受領〇〇九三一七  
開始〇〇九四一五  
一〇一五  
一〇二九七四  
時  
時

聯合艦隊司令部・南西方面艦隊司令部・中部太平洋方面艦隊司令部・四南遠征艦隊司令部

機密第二五一八三一番電

二分ノ三

此ノ際帝國軍ハ斷乎全努力ヲ傾注シテ先ヅ「ホーランドイヤー」方面ノ敵ヲ各個ニ擊破スルニ重點ヲ指向スベキナリ

ニ方面軍ハ此ノ趣旨ニ基キ第三六師團主力ヲ派遣敵艦隊ヲ第十八軍ノ戦力ヲ集中シテ同方面ニ策應進出セシメ當面ノ敵ヲ掃蕩スルニ決セリ當軍トシテハ大陸指揮一九〇八號ノ趣旨モアルモ今日ノ狀況ニ於テハ「ホーランドイヤー」方面ノ敵ノ擊破即チ唯一ノ我が作戦準備強化ノ施策タルト共ニ敵ノ西部「カロリン」方面ヘノ支

一六三九二  
呂二日（五九〇五）ニ一通  
海軍

海軍 第十信線

第十信線

授ヲ割スルノ途ナリト見解ス

馬陸海軍トシテハ今回ノ處置ト之ニ惹キテ他方面戦力ノ補填等ニ付今  
後努力スル決心ナルモ第三六師團ノ東進後第三五師團ノ來着迄一  
カクミ一附近以西陸軍兵有僅少トナルヲ以テ此ノ間此ノ地域ニ於ケ  
ル敵ノ脅威の上陸ニ對シテハ我が海軍ノ之ヲ洋上ニ捕捉殲滅スル果  
敢ナル行動ニ期待ス。

（電信譯註 本電其ノ一未着ニシテ發信者不明ナルモ一應配布ス）

海軍

178

人事

四二六

愛媛一三三〇〇

神丁一四〇〇〇

(一三一六六)

事作  
備

作

第一艦隊戸

大海軍一部・軍醫局・中部太平洋方面艦隊戸

海防隊二五二一〇五番艦

第一南遣艦隊艦長

海防隊第二四一三五〇番艦

五月十五日頃ノ見込 但シ二洋丸ハA船ニシテ後編隊離脱ヨリ落

伍 利用ノ見込ナシ

三日邦丸興川丸各一五〇〇軒三五〇屯三艦一四節

萬葉丸雄邦丸各八五〇〇軒三五〇屯二艦速力一〇・五節

何レモ曳艇細給装艦ナシ 尚砲骨ハ備地ニモ在庫無。

一六三四八

出二日一四三九七五(十)

海軍

第...課

179

局長 秘書長 局長

圖 二六 開始一四三五〇〇 第一一四四〇 一三〇八八 人

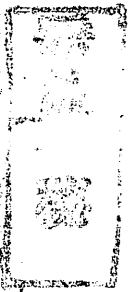
王

● 臺北在勤或直

● 海軍 軍令部 副官

● 海軍 參謀部 參謀

總務部 二六〇八三八番號



敬請 但願 聯合中將以下 巡警使一行 搭乘 〇七一〇 臺灣經由 度東二向 臺灣北陸

一六五八一 郵政 海軍

9/27-5

人事局長

課長

石川

赤松

小佐

四二六

受信一三四〇

譯了一三〇〇 (一一二九七七)

東人合

通事副

緊急

東北 通

共

符

臺北在勤武官

機密第二六一〇〇五番電

第四南遣艦隊參謀長

軍令部副官

通報 人事局長

現職局並ニ横川少將容體悪化ノ現状ニ鑑ミ千田少將亟急繼任任セシメ  
ラレ度キ内務ノ處同官ノ赴任暫ク延期ノ理由知ラサレ度

内務 通

一六五四一 目一D(一九五五〇)(二二一)通

海軍

第一課長 尾島

四二六 受信一六二四八 譯始一六二四五 譯了一六五五(一三三三四)軍務・航本

● 軍務局

● 航本總務部・航空技術廠

機密第二六一〇〇八番電

發 南東方面艦隊參謀長

六番隊用爆彈噴進投射ハ確認實驗ノ結果櫃ノテ有效ト認ララルル處前後左右ノ精度不規ナルハ免レ得ザルヲ以テ六番ニ一號爆彈ヲ使用スレバ或ハ一層有効ノコトアリト考ヘラルルニ付同爆彈噴進投射裝置至急製修供給方取計ヲ得度。

一六五八〇 呂一五(一八三一〇)八通

海軍

447-27

0211

112

局長 濟

課長

第十課

親展

四二七 受信開始〇〇八三〇四 譯了〇八五五 (一三四八五) 航本・人事 一令

東京通信隊 二一通信隊

機密第二六一九〇二番電

發 二八〇司令官

宛 人事局長

通報 一三A部長官 大海參一部長

七〇五空司令大佐小西康雄(九一五)四月十九日敵機動部隊ニ依ル「B」方面空襲ノ際被彈重傷(右大腿部貫通銃創(十三耗機銃彈)一輕 療治ニ約二箇月爾後相當期間靜養ヲ要スル見込 尙交代替發令セラル 場合ハ現地ニ於テ長期靜養ヲ必要ト認メラルルニ付暫ク二八〇司令 部附ニ轉勤ノコトニ取計相成慶

一七〇五〇 日一四三九七、五〇〇一〇通

海軍

123

人本



陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中将 陸軍少将 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

● 大津第一師・中野太平洋方面司令部

● 六 陸 隊 中

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中将 陸軍少将 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中将 陸軍少将 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

通報 南西方面戦隊司令官

岩城中将電（機密）二六一一三三二番電（機密）

○ 其ノニ 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中将 陸軍少将 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

用セララルル内意ナル所候通可能ノ潜水艦名發見迄期日一箇箇

戦艦能力等至急通知アリ度。

進基地名基地

一七一九二 陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中将 陸軍少将 陸軍中尉 陸軍少尉 陸軍中士 陸軍少士 陸軍中兵 陸軍少兵 陸軍中卒 陸軍少卒 陸軍中伍 陸軍少伍

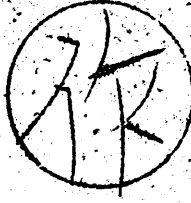
第 十 七 課



人事



緊急



二七

受信一九〇五  
譯始一九〇五

譯了一九二五

(一三七〇九)

作

航空本部總務部

大海參一部・聯合艦隊口・七〇二空・七五三空  
二六航空戰隊・二二二・二二三各航空戰隊・中部太平洋方面艦隊口  
七五二空・七五一空・七三三空・夕ハ才第二航空基地・七六一空

機密第二七一二二二番電

發 第一航空艦隊參謀長

最近一式陸攻ノ補充意ノ如クナラズ一作戰方面陸攻隊實動兵力現狀左  
通シテ哨戒ノミニテモ缺ク狀況ナリ尙茲運目敵發見機ハ殆ト未歸還ノ  
情況ニシテ現狀ノ儘進展セバアト數目ニシテ哨戒ノ持續不能ニ立至ルコ  
ト必定ナリ 機材供給ニ關シ緊急處置ヲ講シラレ度尙電波探信機動力銃  
架裝備ノ爲供給遲ルル場合ハ一部之ガ裝備ヲ省略スルモ差支ナキモノト  
認ム

トヲツタ五 メレニンハ大宮島基地ニ四 テニアン七 ハヲオ二 濠北

一七三九三 呂一七三九三六七五五〇五通

四二七 受領一〇九四七 丁一二一〇 (二四二八) 陸

●大 陸 歩 兵 一 部 ・ 人 事 課

● 統 本 部 務 部 ・ 三 部 課 長 中 ・ 五 三 二 課 ・ 二 三 課 長  
三 部 課 長 中 ・ 五 三 二 課 ・ 二 三 課 長 ・ 七 六 一 課

陸 軍 第 二 七 一 二 一 五 番 電

陸 一 〇 〇 〇 陸 長

現在日地防戒ハ陸上攻撃機ヲ以テスル超低高度突敵ヲ貫通シツツアル  
モ近日來敵水上部隊ハ戦斗機攻撃網ヲ強化シタル爲メ攻ノ如キ劣速機  
ヲ以テシテハ敵機見殆ド未踏返ニシテ第七〇一飛行隊(在大宮島)ノ  
如キハ十九日以降連日一機以上ノ損耗アリテ△、▽機ノ主力全滅ノ状  
況ニ立チ到リタルニ鑑ミ連ニ銀河使用ノ要アルト認ム  
伊勢丹鐵銀河隊ハ最近迄資費材料不足ノ爲メ二航法偵察機係機料訓練

一七五〇六 月一日 (八九九五部) 四通

海 軍

第 十 信 課

不充分ニシテ純然實用ノ域ニ達セズ之ヲ對策トシテ現在ノ財政供給狀  
 態ニ於テハ各隊共若干ノ餘積アル歟源ニ付隨取貯ノ老練格乗員ノ一部  
 ヲ候補隊並隊員トシテ費用ス可キトニ願ヒ頭金考證サセ度。

第十信課

海

軍



人事

一九四二

受修

二〇〇六

記了

二二三一

(三三)

二

特暗

待

第十課

三K

三K

三K

三K

三K

三K

三K

三K

三K

三K

報

大海

部長

GF

AF

TYF

IKD

各口

南西方面飛隊參謀長

五月中旬より同途トシ決戦配備ヲ整アル、要アル地

菲島方面各航空基地施設(滑走路、誘道、路

及掩護宿泊能力、通信施設、配備可能

機教熱帯等)ノ五月初頭ニ於ケル状況所要

向ニ通知方取計ニ度

一七五/六

四四B

(一九六〇KC)

208

有藤

(高橋)

0277

187

MTF

人

陸 北東方國陸軍部  
 陸 軍部局長 大塚 一 郎  
 陸 軍部副局長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第二十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第三十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第四十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第五十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第六十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第七十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第八十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十一部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十二部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十三部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十四部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十五部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十六部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十七部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十八部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第九十九部長 大塚 一 郎  
 陸 軍部第一百部長 大塚 一 郎

一九一五年  
 第三卷  
 第一  
 大  
 海  
 軍

第七十一課



187

人車

四二七

受信開始

一一九〇〇〇

(一三七二六)

局長

人課長

局員

横領・吳鎮・伊三八(吳通)・伊四一(吳通)

機密第二七一六三五番電

發 先遣部隊指揮官

宛 横須賀人事部長・吳人事部長

伊號第三十八潜水艦・伊號第四十一潜水艦(各目下吳歸投中)ハ急速次期作戦ニ出撃ノ關係上各潜水艦ヨリ要求アル者ノ外乗員ノ交代補充ハ絶對行ハザル様取計ハレ度。

一七四六六

呂二B(五一三五五)四通

軍

第一、五、一

人 全部

電信課

189

人事

四二七

受丁給儀

三〇〇  
三〇〇  
一四〇  
〇五六

(一三三三〇)

梅

● 軍令部 第一 部  
● 軍務局・二六線△・三〇線△

機密第二七一七三八番電

發 聯合艦隊參謀長

「マニア」「諸島」「ヘレン」「トコベイ」島等ハハルマハラ(島)及  
比島南部方面ニ對スル警戒上南西方面艦隊ノ作戦環境ニ關入セラレ  
度索爾ナトトコロ理「トコベイ」島制上第二十六線敷地隊編入方取  
計ハレ度。

一七五〇九

第三〇(一九三三〇)海軍一連軍

第  
十七  
課



57/190 批

人表

三七 受領三三三五 丁〇九〇〇 (一三九二五) 作  
三八 歸船〇八四五

課長 局員

● 中部太平洋方面艦隊

● 大連 第一

機密海二七二一〇五番電

機密海二七一一〇七番電

下第五七防空隊へ機密海一號を以て全兵力四月十七日ハラ才機「マ」

クワリニ進出済

三月八日防空隊へ全兵力「マ」ニマシ。

一七六一一

機密海二七二一〇五番電

海軍

電信課

19 / 1977

人

四

二八

二九

三〇

三一

三二

三三

三四

三五

三六

三七

三八

三九

四〇

五

六

七

八

九

一〇

東京通商・聯合銀行・東京・入り目・五七各々

横濱第三八二六〇三海軍 二分ノ二

三二 東京同金首

病 東京同金首

三六 東京同金首 三〇 一 東京同金首

五 東京同金首 二七 一〇 五 東京同金首

東京同金首 在 区域々々

下

一八三六・一八一九

三三二（八九九四）

海 馬



(一) 敵ノP K A方面ニ對スル空襲ハ今後敵前線基地ニ兵力ノ配備ニ伴  
 ・ト並夜間共ニ急々強化セラレ強襲ニ出デントスル傾向ニアルト  
 (二) P K A方面敵機ノ既無情況ニ鑑ミ今後管方面敵機ハ較剛健ノ機體ヲ  
 クシテハ不可能トナルベキニト  
 (三) P Oニ遊ニ有方ナル較剛健機ヲ派遣基地整備等ヲ促進大型機ニ放  
 小型機ヲ以テP B方面敵要地ヲ攻撃スルニアラザレバP Oノ確保ハ  
 作戦機體ヲ食ムハ漸次困難トナルベキニト  
 (四) 敵機ニ對シテ三〇一型ノ進出ニ期待スルトコロ極メテ大ナルモノア  
 ヲシ次第ニシテ之ヲP B方面ニ運用セラルル場合前記諸項考察ノ  
 上適ニ之ヲ機體對策ニ關シ懸念ヲ得度  
 尚P B方面夜間敵機機體ノ滋養性ニ關シテハ圖々所見ヲ開陳セシ過  
 ヲシテ三〇一型等敵機ハ其ノ生立ニモ餘り豊餘ニ於テハ之ヲ夜間敵  
 機機體トシテ使用シ難備シマタル内敵機兵力ノ不足ヲ補フ如ク敵

二機機體ニ對シテ敵機機體ノ滋養性ニ關シテハ圖々所見ヲ開陳セシ過  
 ヲシテ三〇一型等敵機ハ其ノ生立ニモ餘り豊餘ニ於テハ之ヲ夜間敵  
 機機體トシテ使用シ難備シマタル内敵機兵力ノ不足ヲ補フ如ク敵

軍

第41期

92 報

人事

親展

四二九

受信〇三三七  
開始〇八五五

了〇九三〇 (一四五二二) 人事。艦政

一〇一工作部

監本總務部

課長

局長

機密第二八一八五六番電

發 第 根參謀長

當地造船所ハ最近魚雷艇其ノ他海軍船艇ノ修理幅廣シアル外陸軍舟艇ノ修理依頼殺到シ職員従業員モ活氣ズキ面目一新セル感アル處竹下所長繼任以來中心ナク當司令部ニテ直接細部迄指導シアルノ狀況ナリ機關科出身豫備役士官等ヨリ適當ナル所長ヲ選任ノ上至急赴任方御取計ヲ得度。

一八四二一

呂二〇(四三九七、五〇)十通

海軍

第 十 號

193 AF

局長

第一航空監察課長

課長

高員

(工勇)

機務第二九一八五〇番電

● 大海参一部・二六一・一〇二二・二六三各空

● 人 事 司

● 共

符

四 二九 受補〇八〇〇〇  
三〇 開始〇八〇〇〇  
了〇八二五 (一四九七一) 人 一 事令

二六一空二六三空幹部搭乗員補充ニ關シ屢次申進シアル所如何處置相成シヤ至急返アリ度 當方五月十日頃迄ニ更ニ轉進ヲ令セラレアルニ依リ補充者ハ遅クトモ五日迄ニ香取ニ集結スル様取計ヲ得度

区長

四月十八日ニ補充ニ得ル最上限ノ幹部(將監上七等)ヲ補充セリ

一八八五七 口一B (五五八五部) 五通 海 軍

人事

19.5.2

第... 第十...